

療養型医療施設の310人（11.3%）である、性別の構成は女性が2,075人（75.5%）で、男性の637人（23.2%）と女性が大半を占めている。

## 第1章 施設のおかれている現状

### 1. 介護保険導入と介護報酬改定の影響

施設調査では、介護保険導入で施設の経営状況が「よくなつた」は2割で、「わるくなつた」の方が3割で上回っている。仕事については「きつくなつた」が7割と多く、財政難のなかでの対応として非正規職員の採用や業務の外部委託化が図られている。

介護報酬の見直し後、約1年経った現時点の評価のなかでは、経営状況が「わるくなつてゐる」（半数）の多い点が見落とせない。とりわけ、その影響は社会福祉法人の設立・運営施設で深刻に表われており、職員の収入減（48.2%。自治体の設立・運営では18.3%）や常勤職員の減（44.6%、同：18.3%）、そして非常勤職員の増（62.5%、同：33.8%）となっている。

### 2. 施設と地域との関係

施設が情報交換や研修交流している機関のなかでは、行政やそれと関連の強い団体、同類型の施設間での連携・交流、そして地域の介護関連施設やサービス機関などが多い。

そして、本調査の対象となった施設ではボランティアの受け入れ（9割）や児童や児童の課外授業、専門学校生や大学生の研修を受け入れ（8割）を行なっており、「地域へ開かれた施設」を目指している。

このうち、ボランティアが行っている活動で、食事の介助（29.7%）や排泄介助（8.4%）、オムツの交換（5.2%）、入浴着替え介助（21.3%）など直接介護と思われる領域に踏み込んでいるところもみられる（施設調査より）。施設におけるボランティア活動のあり方については、利用者にとっては介護サービスの質、ボランティア自身の安全衛生などからの問題である。今後、より詳細な調査を行ない問題点を明確にし、対応策を講じる必要がある。